

条幅部自由参考

2月25日正午必着

明石春浦先生書

草霞み 水に聲なき 日暮れ哉 (与謝蕪村)

明石幸子書



涼風吹沙礫
明月照緹幕
霜氣何暎暎
華燈散炎輝
寒風は沙礫を飛ばして吹き、霜は地を真白に覆う。
折しも明月は赤黄色の幕舎を照らし、内なる燈火は炎の光をまき散らす。

2月25日正午必着

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

寂然不動（易）

春回雨點溪聲裏
人醉梅花竹影中

高宮谷贈_二鄭鄂_一
(岑 参)

春は回る雨點溪聲の裏
人は醉う梅花竹影の中

寂然不動

精神のやすらかに定まっていること。

春はしとしと降る雨にも谷川のせせらぎにも帰つて

来た。人々は梅花竹林の間に酒に酔う。

空齋不見君
人醉梅花竹影中

高宮谷贈_二鄭鄂_一
(岑 参)

春は回る雨點溪聲の裏
人は醉う梅花竹影の中

寂然不動

精神のやすらかに定まっていること。

春はしとしと降る雨にも谷川のせせらぎにも帰つて

来た。人々は梅花竹林の間に酒に酔う。

門徑稀人迹
衣裳與枕席

高宮谷贈_二鄭鄂_一
(岑 参)

春は回る雨點溪聲の裏
人は醉う梅花竹影の中

寂然不動

精神のやすらかに定まっていること。

春はしとしと降る雨にも谷川のせせらぎにも帰つて

来た。人々は梅花竹林の間に酒に酔う。

澗花燃暮雨
門徑稀人迹
衣裳與枕席

高宮谷贈_二鄭鄂_一
(岑 参)

春は回る雨點溪聲の裏
人は醉う梅花竹影の中

寂然不動

精神のやすらかに定まっていること。

春はしとしと降る雨にも谷川のせせらぎにも帰つて

来た。人々は梅花竹林の間に酒に酔う。

鶯
に
朝寒からぬ
京の山おち椿ふむ
ひと
人むつまじき

高宮谷贈_二鄭鄂_一
(岑 参)

春は回る雨點溪聲の裏
人は醉う梅花竹影の中

寂然不動

精神のやすらかに定まっていること。

春はしとしと降る雨にも谷川のせせらぎにも帰つて

来た。人々は梅花竹林の間に酒に酔う。

故園黃葉滿青苔
夢後城頭曉角哀
此夜斷腸人不見
起行殘月影徘徊

故園黃葉滿青苔
夢後城頭曉角哀
此夜斷腸人不見
起行殘月影徘徊
(顧況)



菅井松雲先生書

半紙部規定課題A

2月25日正午必着



※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

明石春浦先生書

半紙部規定課題B

2月25日正午必着

行書

隸書

明石春浦先生書

秋夜宿淮口

景池

露白草猶青

淮舟倚岸停

風帆幾處客

天地兩河星

樹靜禽眠草

沙寒鹿過汀

明朝誰結伴

直去泛滄溟

露白草
猶青

露白草
猶青

露白草
猶青

露白草
猶青

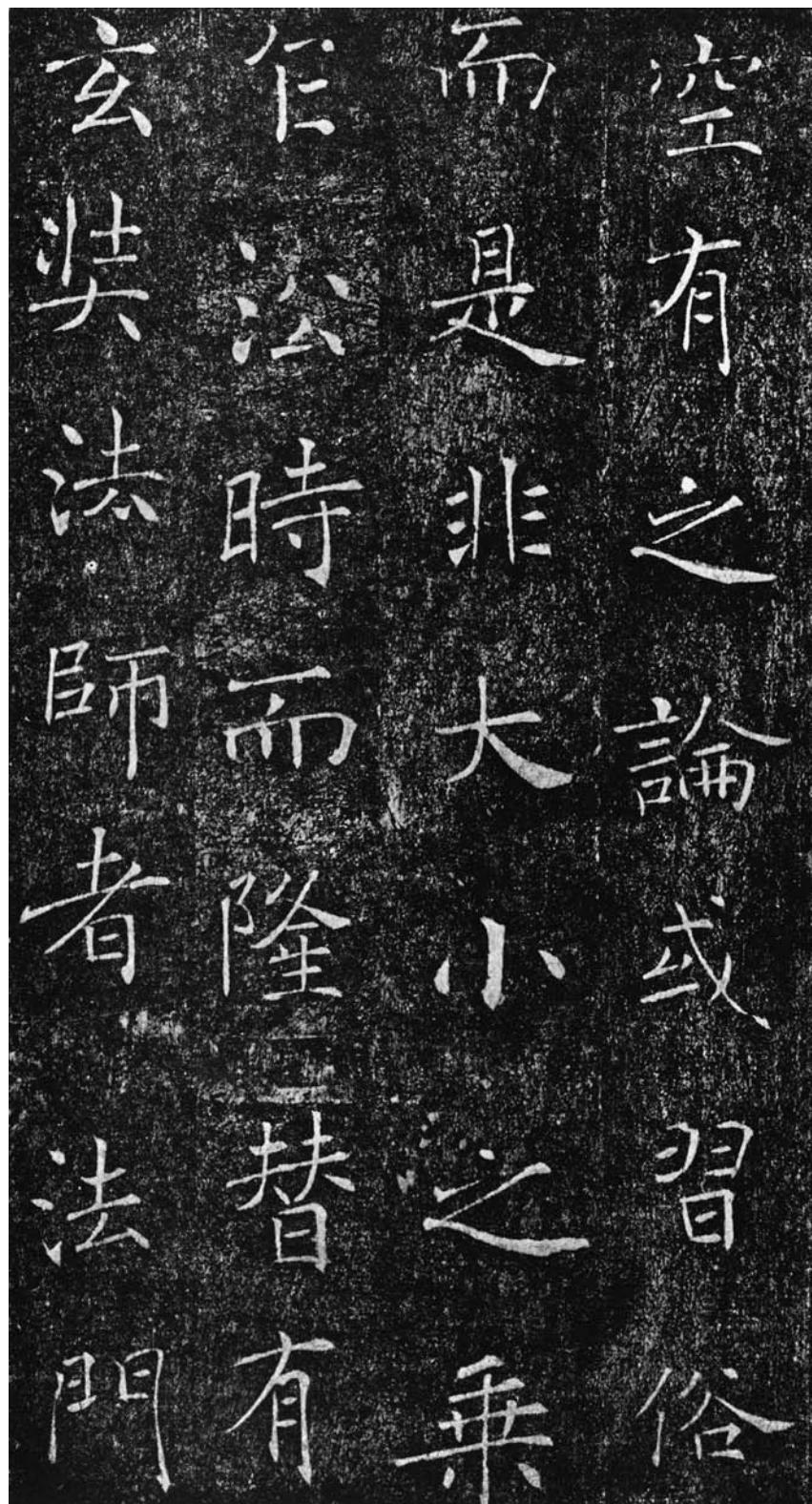
草書

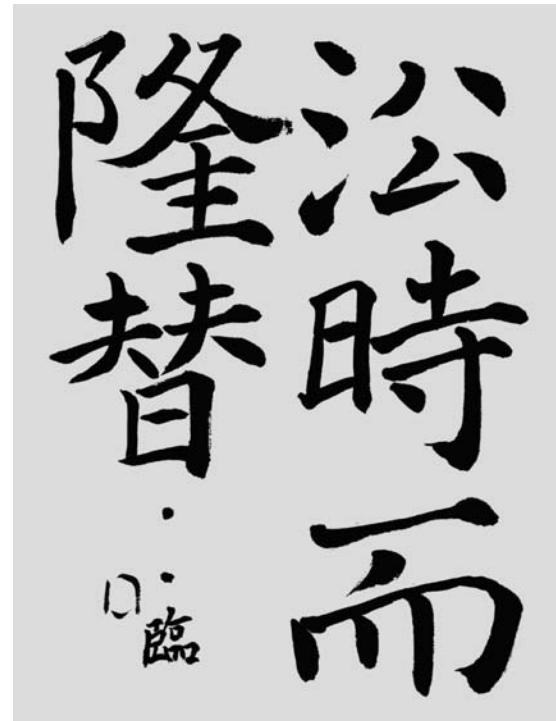
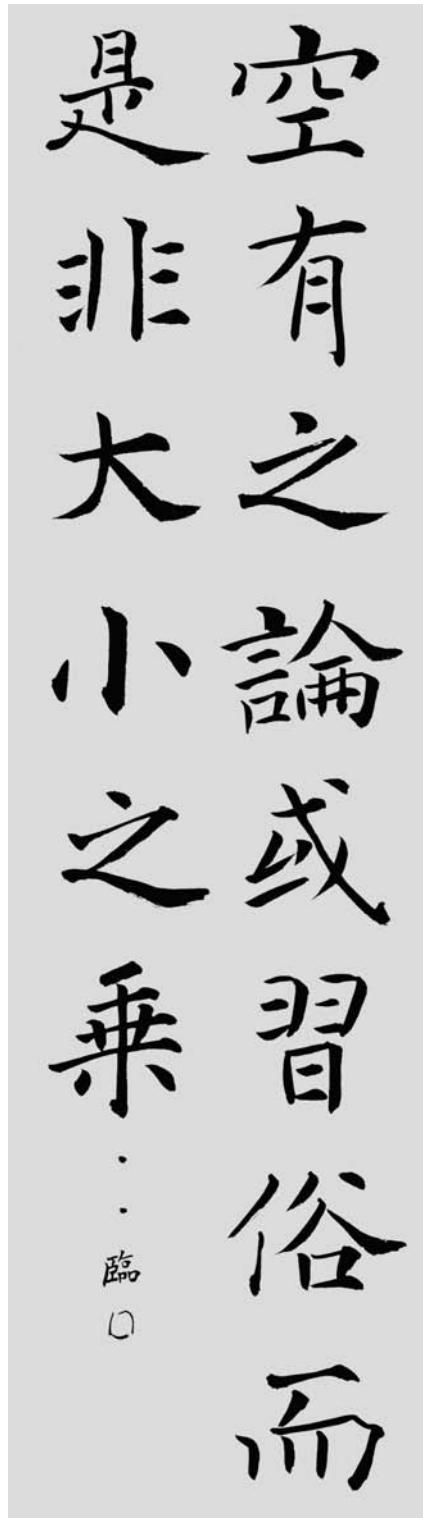
行草書

露の白くおりるころ、草はなおも青々と茂る 淮水を行く舟は岸によりそつて碇泊する
風に帆をかけて、彼方へ向かう旅人 空には天の川、地上には淮水、それぞれにきらめく星
樹木は静まって、鳥は草の中に眠り 岸の砂は冷たく、鹿が汀を駆け過ぎる
明日の朝、私と連れだって まっすぐに大海に浮ぼうという人はないものだろうか

秋夜
淮口に宿す
露白くして
草は猶お青し
淮舟
岸に倚りて停まる
風帆
幾処の客
天地
両河の星
樹
静かにして
禽は草に眠り
砂
寒うして
鹿は汀を過ぐ
明
朝
誰か伴を結び
直ちに去つて
滄溟に泛ばん

条幅部半紙部臨書課題





唐褚遂良 ちよすいりきらう 雁塔聖教序

浙江省の出身で、河南公に封ぜられたことから、褚河南ちかなんの称もある。歐陽詢・虞世南と合わせて「初唐の三大家」といわれるが、彼らより四十年程、後輩となる。彼は若い時から書家として、また鑑識家として優秀だったので、重臣の魏徵びぢょうの推薦により四十一歳の時から太宗に仕えた。

彼は書家として優れていたばかりでなく、人格が非常に高潔・硬骨の人であった。太宗の死後、高宗に仕えたが、則天武后が皇后になろうとするのを反対した為に左遷され、晩年は不遇の中、愛州（今のベトナム）で死んだ。

彼の書は、遠く王羲之を範とし、虞世南・歐陽詢を師としたが、のちに一派を成した。結体は閑雅悠遠、用筆は清勁で変化の妙を極め、韻致に富んでいる。

この雁塔聖教序は、五十八歳の書で、彼の代表的傑作である。玄奘法師の功績に対して太宗・高宗がそれぞれ序文と序記を作ったものである。石質が良く現在もほぼ完全な状態で残っている。結体は彼獨得の豊かな抱擁力と広がりを持ち、用筆は弾力性に富み、変化の妙を極めていい。

（春廣）

2月25日正午必着

教 育 部 毛 筆



しょ
書

かん
簡

中学一年

雨宮春聲先生書



あ
飛

す
鳥

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



かん
館

ちょう
長

小学五年



ひ
批

ひょう
評

小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

2月25日正午必着



おも

い

小学三年

細谷春誠先生書



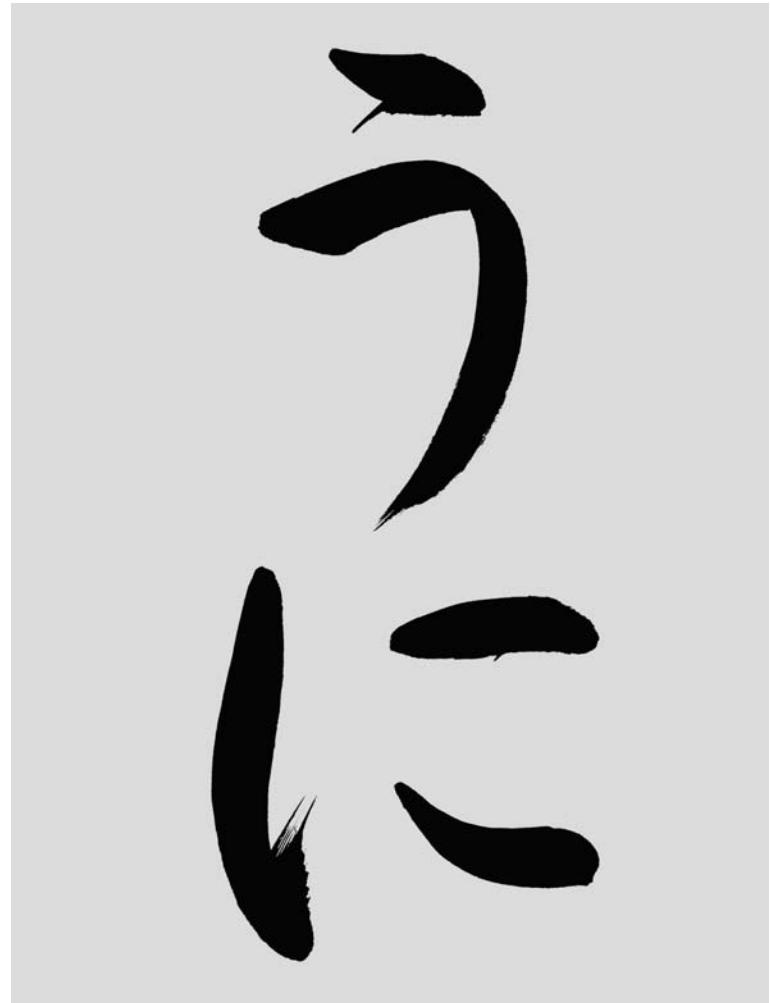
てん

こう

小学四年

榎戸春龍先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



う

に

小学一年・幼年

明石幸子書



あ

う

小学二年

藤田幸春先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

2月25日正午必着

教育部 硬筆

ペン字部

白くそびえる冬の
連山は雄大である

太陽に照らされて
きらきら光る霜柱

白い雪原を黒いけれど
うの汽車が走つて行く

冬の冷たい空氣にめざめ
れば窓の外は銀世界

冬枯の黄なる草山ひとりゆくうしろ姿を見むひともなし（若山牧水）
うら邊を走り出す

小学五年

小学六年

中 学

一般(級位)

一般(段位)

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

てね
こ
が
まるく
こ
な
る

幼年

い足
を
し
て
あ
る
く

小学一年

の白
ばち
し
てう
いが
る羽
を

小学二年

のど
中う
てふ
冬ご
もり土

小学三年

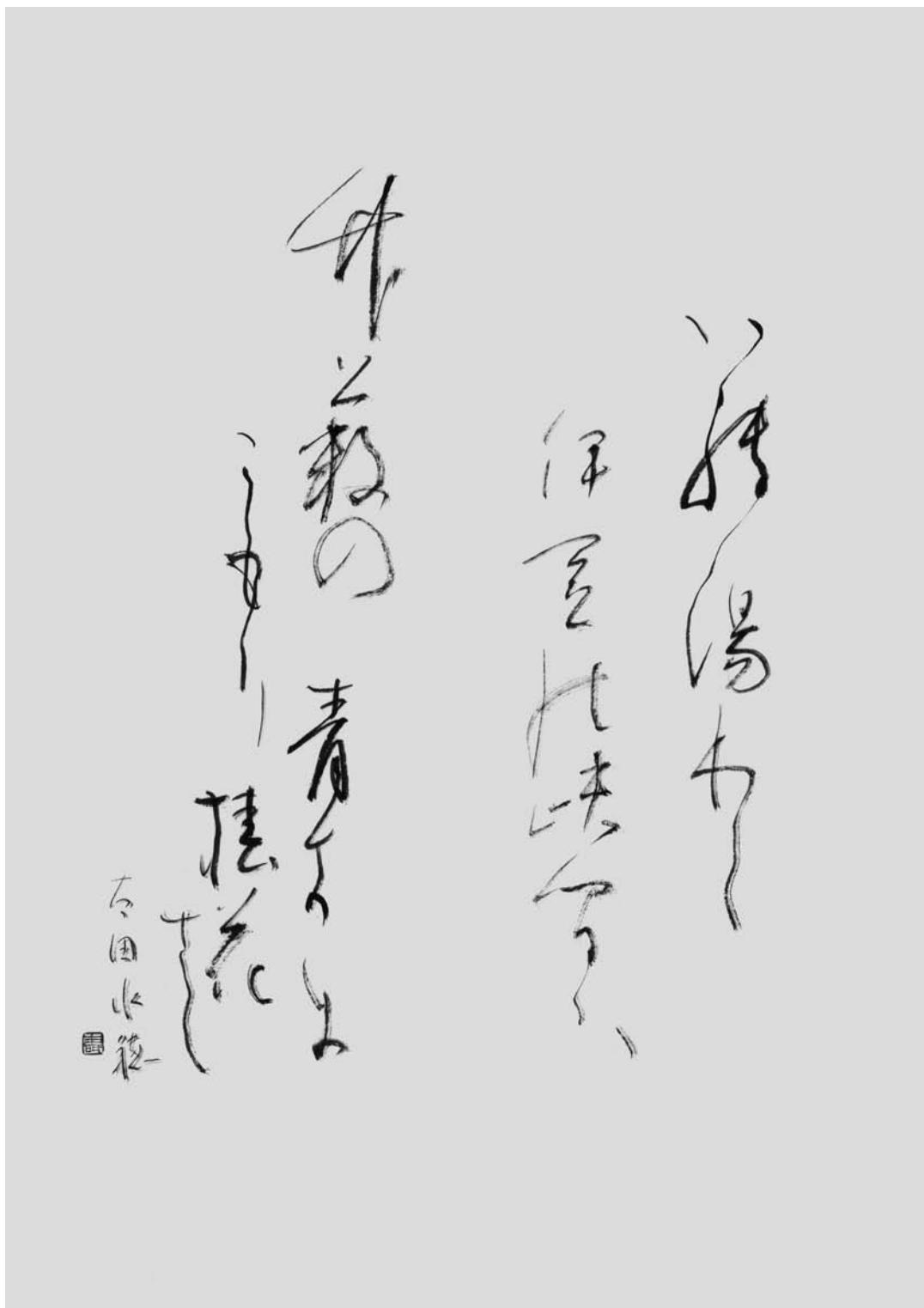
まで続
いてい
ま
す

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

半紙部かな参考

2月25日正午必着



いで湯わく伊豆の峠間は竹藪の青きにこもり椿花さく
支尔能八

(太田水穂)

岩本景楓先生書